

## 8. 古墳のおわり

3世紀後半から続いてきた大きな盛り土を持つ古墳は、8世紀の奈良時代にはほとんど姿を消します。お墓で社会的身分を表現することがなくなったからでしょう。

奈良時代は中国の制度や文化を積極的に採り入れた国づくりが進められました。衣服の制度もそのひとつで、身につける服の色やベルトの飾りで、ひと目で身分がわかるようになっていました。

発掘の様子を再現展示している太子町の伽山古墳は奈良時代のお墓で、小さな石組みの中に置かれた木棺の周りは木炭で囲まれていました。木棺の中から見つかった銀のベルト飾りから、亡くなった人は、かなり位の高い人物だったことがわかります。

また、仏教とともに伝わった火葬は、我が国では西暦700年に道昭（どうしょう）という僧が初めて行ったことが記録に残されています。その後天皇や貴族たちの間でも火葬がおこなわれ、徐々に広まっていったようです。ただ、伽山古墳に見られるように、土葬もまたひろくおこなわれていました。